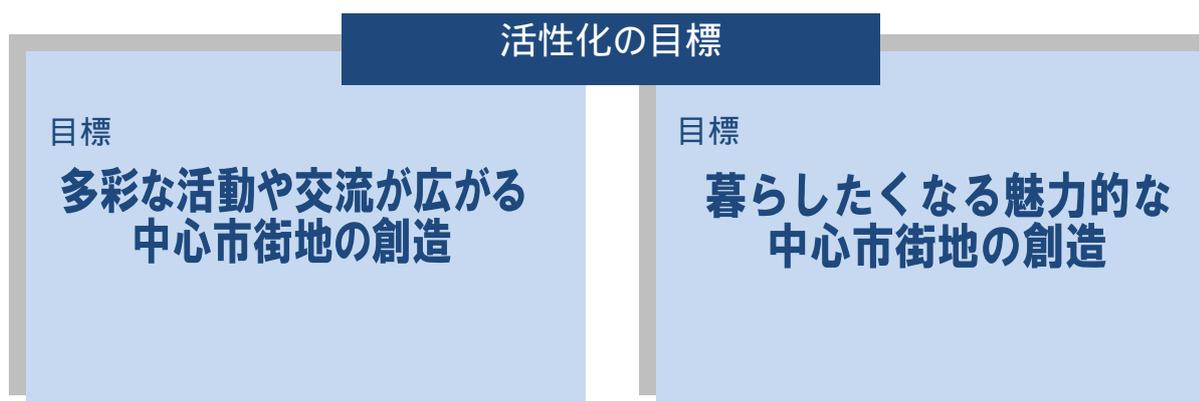


### 3. 中心市街地の活性化の目標

#### [ 1 ] 活性化の目標

これまでの中心市街地活性化のための取り組みや本市の状況の検証を踏まえ、活性化を推進していくためのテーマと3つの基本方針を掲げた。そして、3つの基本方針を実現するために、新基本計画における活性化のための2つの目標を次のとおり設定する。



#### 目標 多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造

「基本方針1 市民活動・交流が活発な、みんなが行きたくなる魅力あふれるまちをめざします」を実現するために、川西能勢口駅周辺の商業施設や公共施設などにおいて、前基本計画に引き続き、商業の振興のためのイベントなどを実施していくとともに、キセラ川西を有効活用するための特色あるイベントの企画・立案・実施をすることで、川西能勢口駅周辺とキセラ川西の回遊性の創出に取り組み、さらなるにぎわいを生み出す。

また、キセラ川西では、キセラ川西プラザや中央公園、せせらぎ遊歩道の整備などにより、市民の文化・スポーツなどの活動の場や機会を充実させ、来街者が中心市街地を楽しみ、できるだけ長い時間滞在できるまちをめざす。

さらに、「基本方針3 個々の人や組織をつなぎ、多様な取り組みを通じて活性化を図ります」を実現するために、タウンマネジメント機能を強化し、来街者の回遊性の創出と滞留時間の増大を促進させる取り組みを積極的に展開する。

このような取り組みを実施することで「基本方針1」と「基本方針3」を実現し、商業の振興をめざすための活性化の目標として「目標 多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造」を設定する。

## 目標 暮らしたくなる魅力的な中心市街地の創造

「基本方針2 生活関連サービスが充実した、環境に優しい、住みやすいまちをめざします」を実現するために、キセラ川西のまちづくりを通じて、キセラ川西プラザの整備を図ることで、健康・医療・福祉、芸術・文化・スポーツなどのサービスを身近に、快適に受けることができる環境を整える。

あわせて、中央公園やせせらぎ遊歩道の整備により、自然環境を活かした水・緑に身近にふれあえる場づくりを行うとともに、キセラ川西マンション建設事業による新たな住まいの提供を通じて、まちなかへの居住を促進し、活気を生み出す。

また、川西能勢口駅周辺においても、サービス付高齢者向け住宅を整備することで、高齢者に優しい、暮らしやすい環境を整える。

このような取り組みを実施することで「基本方針2」を実現し、居住人口を増加させ、商業の振興につなげていくための活性化の目標として「目標 暮らしたくなる魅力的な中心市街地の創造」を設定する。

### [ 2 ] 計画期間の考え方

本計画の計画期間は、平成27年4月から、主要事業への着手及び事業実施効果が見られる平成32年3月までの5年間とする

### [ 3 ] 目標指標の設定とその考え方

#### (1) 目標 「多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造」に関する目標指標

中心市街地は、通勤・通学者をはじめ鉄道やバスの乗り換え客が多く、中心市街地を通り過ぎるだけの人が多く存在している。今後のキセラ川西におけるハード整備事業や、それに伴う市民や事業者による様々な活動、ソフト事業の実施などの活性化の取り組みにより、これらの人たちにできるだけ多く立ち寄ってもらい、長く滞在してもらうことが中心市街地の活性化につながっていく。

そのため、中心市街地のにぎわいを把握する指標として、川西能勢口駅周辺と、キセラ川西とを相互に回遊する状況を詳細に把握するために、前基本計画において実施していた「歩行者通行量(休日)」の調査項目に自転車を追加し、「歩行者・自転車通行量(休日)」を設定する。

さらに、中心市街地にどの程度滞在しているかを把握する指標として、「来街者の平均滞留時間」を設定する。

##### 1) 歩行者・自転車通行量(休日)

- ・中心市街地活性化協議会による「歩行者・自転車通行量調査」のデータを活用し、中心市街地の回遊の中心である川西能勢口駅周辺の通行量(休日)とする。

- ・川西能勢口駅周辺と、キセラ川西とを相互に回遊する状況を詳細に把握する観点から、前基本計画において実施していた歩行者通行量調査に、自転車を追加する。また、調査地点を2地点追加し、計10地点とする。
- ・川西能勢口駅周辺の通行量は、平日の数値では、通勤・通学者が休日よりも多く含まれていると考えられるため、にぎわいの数値を計るという観点から、休日の通行量を目標指標として用いる。

## 2) 来街者の平均滞留時間

- ・毎年度実施する「まちなか滞留調査」のデータを活用する。
- ・当調査は、来街者を対象に街頭インタビュー形式で実施し、中心市街地への来街目的や回遊の状況を把握する一環として、滞留時間についての設問を設けている。
- ・楽しんでまちを回遊する時間が長いほど、まちで買い物などをする機会が多くなり、商業の振興につながっていくと考えられるため、まちなかを楽しんで回遊している状況を確認するという観点から、来街者の平均滞留時間を目標指標として用いる。

## (2) 「目標 暮らしたくなる魅力的な中心市街地の創造」に関する目標指標

本市の中心市街地は最寄品の購入が中心となっている状況から、新規居住者を増やしていくことが活性化を図るためには重要である。

そのため中心市街地への新規居住の状況を把握する指標として「人口の社会増減」を設定する。

### 1) 人口の社会増減（転入者数から転出者数を引いた数）

- ・住民基本台帳により、中心市街地における人口の状況を把握する。
- ・中心市街地からの転入・転出と市内転居の件数を把握し、人口の社会増減の数値を確認する。

## (3) 2つの目標に共通する参考指標

目標 で掲げた歩行者・自転車通行量（休日）や来街者の平均滞留時間、人口の社会増減のそれぞれの目標指標数値の増減が、中心市街地の商業にどのような影響を与えているかを確認するための参考指標として、「年間商品販売額（小売業）」を設定する。

### 参考指標 年間商品販売額(小売業)

- ・経済センサスのデータにより、小売業の年間商品販売額の状況を確認する。
- ・経済センサスの調査が実施されない年度においては、主要大規模商業施設への聞き取り調査を実施し、推計する。

#### [ 4 ] 数値目標の設定とその考え方

##### ( 1 ) 「目標 多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造」に関する数値目標

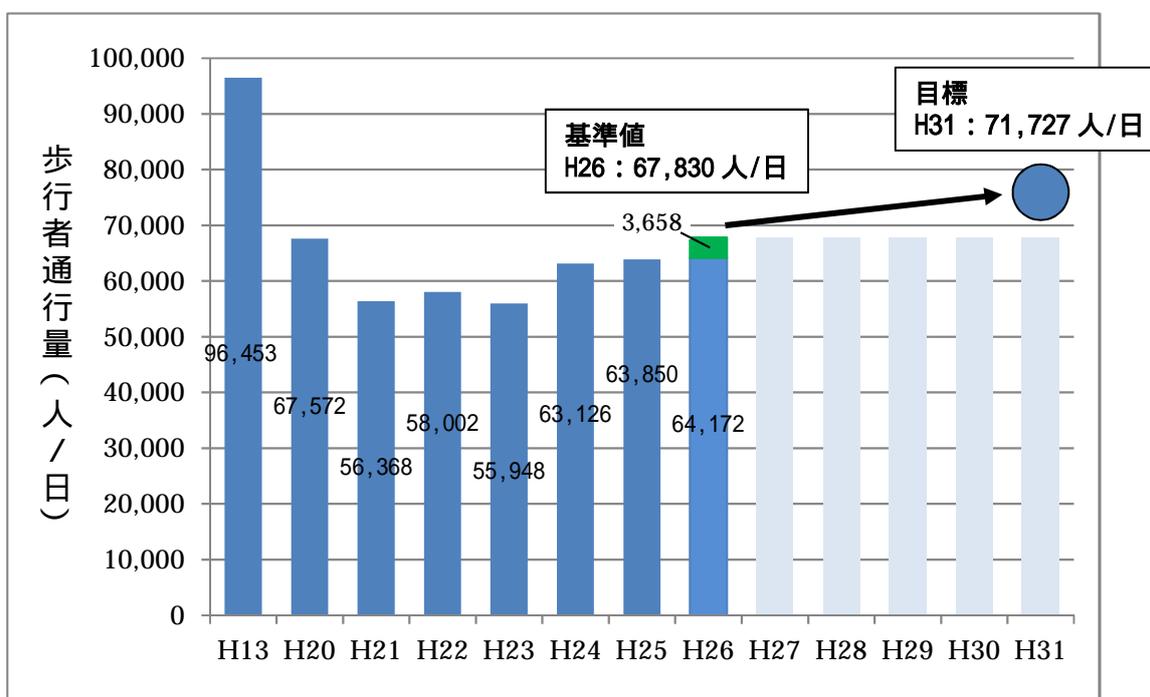
###### 歩行者・自転車通行量（休日）

###### 【基本的な考え方】

- ・前基本計画における活性化のための事業実施により、減少傾向にあった歩行者通行量（休日）は、平成 22 年度以降、増加に転じた。
- ・今後、キセラ川西プラザ整備事業や、中央公園整備事業、せせらぎ遊歩道整備事業などを実施するとともに、川西能勢口駅周辺とキセラ川西における各種イベントなどの展開を通じて、回遊を促進するほか、キセラ川西マンション建設事業等による居住者の増加を通じて、新たに、歩行者・自転車通行量（休日）の増加をめざす。

###### 【目標】

歩行者・自転車通行量(休日) 目標 71,727 人/日(基準値 67,830 人/日・H26 年度)



H26 年度は、8 地点 (64,172 人) に 2 地点+自転車 (3,658 人) の通行量を加えた数値

歩行者・自転車通行量調査地点



調査地点	
	アステ川西南側の歩行者デッキ
	川西能勢口駅南の歩行者デッキ
	川西能勢口駅北の歩行者デッキ
	高架側道イオンリテール北東側の歩道
	川西能勢口駅北東中央交番前の歩道
	県道パルティ川西前の歩道
	モザイクボックス西の歩道
	イオンリテール連絡通路
	川西市役所西交差点北東側の歩道
	市役所前の歩道

- ・ 川西能勢口駅周辺と、キセラ川西とを相互に回遊する状況を把握する観点から、調査地点を追加し、計 10 地点とする。
- ・ 歩行者に加え、自転車の通行量を加算する。
- ・ 平成 25 年度以前の数値は、～ の 8 地点の数値の合計で、平成 26 年度の数値は、～ の 10 地点の数値に自転車通行量の数を加えた数値。

以上の目標数値を達成するために、次のとおり効果を見込む。

1) 事業を実施しない場合の歩行者・自転車通行量（休日）の推計値

- ・平成 22 年度から歩行者通行量（休日）は前基本計画の推進により増加しているが、活性化を図るための事業を実施しない場合は、歩行者・自転車通行量（休日）においても増加傾向から横ばいに推移していくと見込む。

2) キセラ川西プラザ整備事業による効果

- ・キセラ川西プラザの整備により、年間来館者数を各公民館や文化会館ホールなどの平成 25 年度施設利用者数から 86,000 人と見込む。
- ・一日あたりの来館者数を  $86,000 \text{ 人} \div 365 \text{ 日} = 236 \text{ 人/日}$  とする。
- ・来館者の内、50%が徒歩、自転車、または、電車やバスなどの公共交通機関を利用し、川西能勢口駅周辺を經由して当施設に来館するものと見込む。
- ・川西能勢口駅周辺を經由して来館者は、駅周辺と当施設を往復することで、川西能勢口駅周辺の 3 調査地点ならびに、調査地点 ・ のいずれか 1 地点、計 4 地点を 2 回通過するものと想定する。

**キセラ川西プラザ整備事業による効果：944 人**

$$\begin{aligned} & \text{来館者数} \times \text{川西能勢口駅周辺を經由する来館者の割合} \times \text{通過する調査地点} \\ & \hspace{15em} \times \text{通過回数} \\ & = 236 \text{ 人} \times 50\% \times 4 \text{ 調査地点} \times 2 \text{ 回} = 944 \text{ 人} \end{aligned}$$

3) 中央公園整備事業及びせせらぎ遊歩道新設事業による効果

- ・中央公園及びせせらぎ遊歩道の 1 日当たりの利用者数を 292 人/日（平成 25 年度県立公園の利用者：146 人/ha × 中央公園 約 2.0ha = 292 人）と見込む。
- ・上記利用者数のうち、キセラ川西プラザの来館者と同様、川西能勢口駅周辺を經由する利用者を約 50%と見込む。
- ・また、川西能勢口駅を經由する利用者は、駅周辺と中央公園やせせらぎ遊歩道等を往復することで、川西能勢口駅周辺の 3 調査地点ならびに、調査地点 ・ のいずれか 1 地点、計 4 地点を 2 回通過するものと想定する。

**中央公園整備事業及びせせらぎ遊歩道整備事業による効果：1,168 人**

$$\begin{aligned} & \text{施設利用者数} \times \text{川西能勢口駅周辺を經由する利用者の割合} \times \text{通過する調査地点} \\ & \hspace{15em} \times \text{通過回数} \\ & = 292 \text{ 人/日} \times 50\% \times 4 \text{ 調査地点} \times 2 \text{ 回} = 1,168 \text{ 人} \end{aligned}$$

#### 4) キセラ川西マンション建設事業による効果

- ・当該住宅供給に伴い増加する新規居住者による回遊を見込む。
- ・当事業の計画戸数 202 戸に対し、新規居住者を 404 人と見込む(202 戸×平均世帯人員数約 2.0 人=404 人)。
- ・新規居住者のうち、次表のとおり 55.23%が休日に中心市街地を回遊し、川西能勢口駅周辺の 3 調査地点ならびに、調査地点 ・ のいずれか 1 地点、計 4 地点を 2 回通過するものと想定する。

休日に来街する割合

来街頻度 (平日、休日 含む)	休日にまちなか 滞留調査に回答 した来街者数 (229 人)  A	来街する割合(1 週間のうちに来 街する日数÷1 週間7日で算出)  B	休日に来街 する人数 (見込み) A×B  C	休日に来街 する割合 C÷229人  D	備考
ほとんど毎日	105 人	100%	105 人	45.85%	Bの算出:7回 ÷7日=100%
週2~3回	50 人	36%	18 人	7.86%	Bの算出:7日 に2.5回来街 するとして 2.5回÷7日= 36%
週1回程度	25 人	14%	3.5 人	1.52%	Bの算出:1回 ÷7日=14%
月に2~3回	22 人	見込まない	-	-	
月1回程度	13 人	見込まない	-	-	
その他	14 人	見込まない	-	-	
<b>休日に来街する割合の合計</b>				<b>55.23%</b>	

Aは、「まちなか滞留調査」の実績値

**キセラ川西マンション建設事業による効果：1,785 人**

新規居住者数×休日来街頻度×通過する調査地点×通過回数  
= 404 人×55.23%×4 調査地点×2 回 1,785 人

1)~4)により、目標値は、次のとおりとなる。

#### 目標達成のための総括表

##### 総括表

項目	事業実施の効果等	増加人数等
基準値	平成 26 年度の歩行者・自転車通行量(休日)	67,830 人/日
推計	1) 活性化事業を実施しない場合の平成 31 年度の歩行者・自転車通行量(休日)の推計値	0 人/日

積算等	2) キセラ川西プラザ整備事業による効果	944 人/日
	3) 中央公園整備事業及びせせらぎ遊歩道整備事業による効果	1,168 人/日
	4) キセラ川西マンション建設事業による効果	1,785 人/日
	事業実施の効果等の合計 = 1) + 2) + 3) + 4)	3,897 人/日
平成 31 年度の歩行者・自転車通行量(休日)の目標値 : 基準値 67,830 人/日 + 事業実施の効果等 3,897 人/日 = 71,727 人/日		71,727 人/日

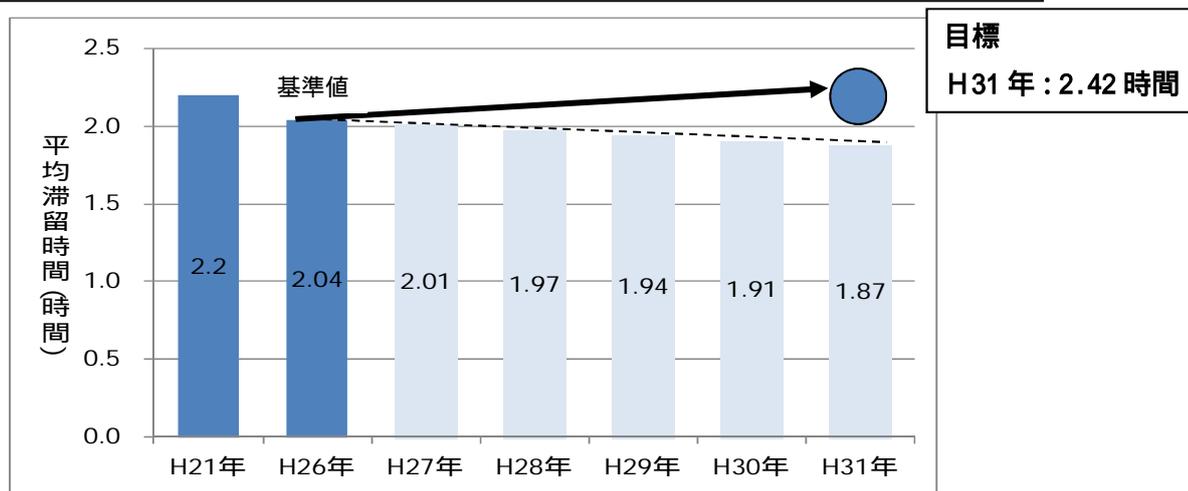
## 来街者の平均滞留時間

### 【基本的な考え方】

- ・ キセラ川西プラザ整備事業や中央公園整備事業、せせらぎ遊歩道整備事業などを実施し、各施設の来街者がその前後で、川西能勢口駅周辺及びキセラ川西で買物や飲食等を行うことで、中心市街地への集客性を高め、回遊性を向上させるとともに、キセラ川西マンション建設事業等による居住者の増加を通じて、来街者の平均滞留時間を延ばすことをめざす。

### 【目標】

来街者の平均滞留時間 目標 2.42 時間[145 分](基準値 2.04 時間[122 分]・H26 年度)



以上の目標数値を達成するために、次のとおり効果を見込む。

1) 活性化事業を実施しない場合の来街者の平均滞留時間の推計値

- ・来街者の平均滞留時間は、平成 21 年度から平成 26 年度までの 5 年間で、下記の通り 0.167 時間減少した。

$0.167 \text{ 時間 (10 分)} = 2.2 \text{ 時間 (132 分} \cdot \text{H21 年度)} - 2.04 \text{ 時間 (122 分} \cdot \text{H26 年度)}$
--

- ・現状のまま、滞留時間が推移した場合、さらに 5 年後までに 0.167 時間 (10 分) 減少し、平成 31 年度には 1.87 時間となる可能性がある。

$1.87 \text{ 時間 (112 分} \cdot \text{H31 年度)} = 2.04 \text{ 時間 (122 分} \cdot \text{H26 年度)} - 0.167 \text{ 時間}$
--

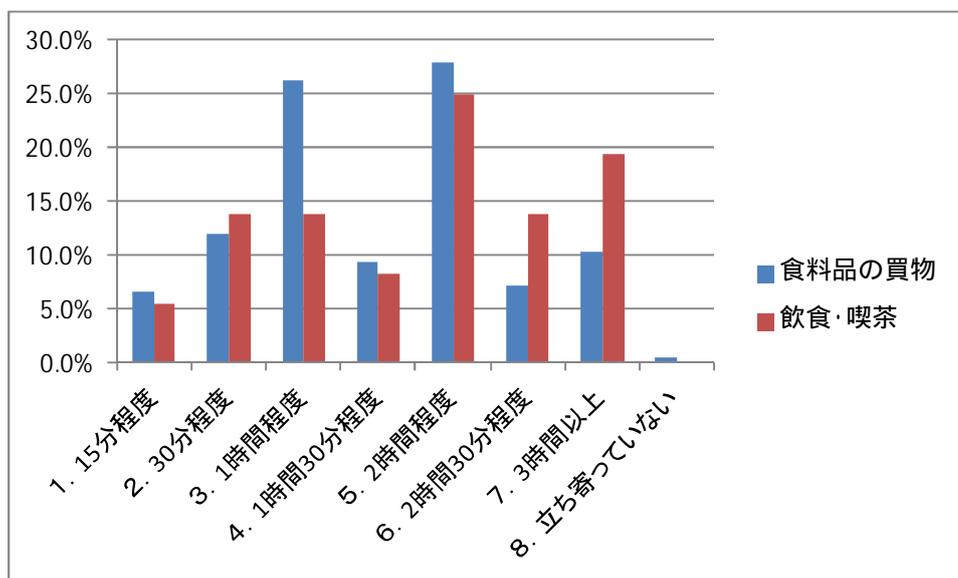
2) キセラ川西プラザ整備事業、中央公園整備事業及びせせらぎ遊歩道整備事業による効果

- ・キセラ川西プラザ整備事業、中央公園整備事業及びせせらぎ遊歩道新設事業の効果として歩行者・自転車通行量 (休日) において算出した 1 日あたりの歩行者・自転車通行量の増加人数を引用する。
- ・当該増加した来街者について、下表にある各施設を利用を楽しむ目的で中心市街地へ来街し、施設利用前後に川西能勢口駅周辺を回遊することが想定される。
- ・施設利用の滞留時間とその前後の川西能勢口駅周辺の回遊における滞留時間 (まちなか実感調査における主要な来街目的である「食料品の買い物」・「飲食・喫茶」を目的とした来街者の滞留時間の分布を参考に算出) を踏まえ、中心市街地での滞留時間を下表の通り見込む。

施設利用者数と滞留時間の見込み

事業名	歩行者・自転車通行量の増加人数	滞留時間(見込み)			滞留時間(見込) 総計
		施設利用時間	川西能勢口駅周辺での回遊	その他	
キセラ川西プラザ整備事業	944 人 歩行者・自転車通行量(休日) P72 総括表 2) 参照	2 時間 民間収益施設、福祉・保健・文化関連施設、文化ホール等に滞留する時間	2 時間 買い物・飲食、イベント参加等(まちなか滞留調査の回答数が多かった時間)	1 時間 会場出入り・移動時間	5 時間
中央公園整備事業及びせせらぎ遊歩道整備事業	1,168 人 歩行者・自転車通行量(休日) P72 総括表 3) 参照	1 時間 都市公園利用実態調査報告書からの平均利用時間	2 時間 買い物・飲食、イベント参加等(まちなか滞留調査の回答数が多かった時間)	0.5 時間 移動時間	3.5 時間

食料品の買い物、飲食・喫茶を目的とした来街者の滞留時間の分布



出典：まちなか滞留調査（平成 26 年度）

さらに、各施設に係る歩行者・自転車通行量について、歩行者・自転車通行量（休日）の目標値 71,727 人に対する割合を加味し、上表設定による滞留時間を延ばす効果を下表の通り整理する。

施設利用による滞留時間を延ばす効果

事業名	歩行者・自転車通行量の増加分	歩行者・自転車通行量 目標値に対する割合 A	滞留時間 総計 B	滞留時間を延ばす効果 A × B
キセラ川西プラザ整備事業	<b>944 人</b> 歩行者・自転車通行量(休日) P72 総括表 2)参照	<b>1.4%</b> (944 人 ÷ 71,727 人 0.014)	<b>5 時間</b>	<b>0.07 時間</b>
中央公園整備事業及びせせらぎ遊歩道整備事業	<b>1,168 人</b> 歩行者・自転車通行量(休日) P72 総括表 3)参照	<b>1.7%</b> (1,168 人 ÷ 71,727 人 0.017)	<b>3.5 時間</b>	<b>0.06 時間</b>



**キセラ川西プラザ整備事業、中央公園整備事業及びせせらぎ遊歩道整備事業による効果：0.13 時間**

キセラ川西プラザ整備事業 0.07 時間

+ 中央公園及びせせらぎ遊歩道 0.06 時間=0.13 時間

### 3) キセラ川西マンション建設事業による効果

- ・当該住宅供給に伴い増加する新規居住者による効果を算出するために、歩行者・自転車通行量（休日）において算出した1日あたりの歩行者・自転車通行量の増加人数を引用する。
- ・当該増加分に相応する来街者について、各種イベント等の開催の効果として、中心市街地における滞留時間を下表の通り見込む。（前述の施設利用者の滞留時間と同様、食料品の買い物、飲食・喫茶を目的とした来街者の滞留時間分布を参考とした）

新規居住者の滞留時間の見込み

新規居住者を増加する事業	歩行者・自転車通行量の増加分	滞留時間
		川西能勢口駅周辺での回遊
キセラ川西マンション建設事業	1,785人 歩行者・自転車通行量（休日） P72 総括表 4)参照	2時間 買い物・飲食、イベント参加等（まちなか滞留調査において回答数が多かった時間）

さらに、事業効果による歩行者・自転車通行量について、歩行者・自転車通行量（休日）の目標値71,727人に対する割合を加味し、上表設定による滞留時間を延ばす効果を下表の通り整理する。

新規居住者による滞留時間を延ばす効果

新規居住者を増加する事業	歩行者・自転車通行量の増加分	歩行者・自転車通行量目標値に対する割合 A	滞留時間 総計 B	滞留時間を延ばす効果 A × B
キセラ川西マンション建設事業	1,785人 歩行者・自転車通行量（休日）P72 総括表 4)参照	2.5% (1,785人 ÷ 71,727人 = 0.025)	2時間	0.05時間

キセラ川西マンション建設事業による効果：0.05時間

#### 4) 各イベント事業の継続実施による相乗効果

- ・ 2) と 3) の事業を実施するとともに、事業実施の効果を高めるための各種ソフト事業を継続して実施することで、これまで通過するだけであった来街者などが、中心市街地の商業施設や飲食店等に立ち寄る機会が増えた場合、全体的な滞留時間が 22 分間 (0.367 時間) 程度延びることを見込む。

1) ~ 4) により、目標値は、次のとおりになる。

#### 目標達成のための総括表

##### 総括表

項目	事業実施の効果等	増加時間等
基準値	平成 26 年度の来街者の平均滞留時間	2.04 時間
推計	1) 活性化事業を実施しない場合の平成 31 年度の来街者の平均滞留時間の推計値	0.167 時間
積算等	2) キセラ川西プラザ整備事業、中央公園整備事業及びせせらぎ遊歩道整備事業による効果	0.13 時間
	3) キセラ川西マンション建設事業による効果	0.05 時間
	4) 各イベント事業の継続実施による相乗効果	0.367 時間
	事業実施の効果等の合計 = 1) + 2) + 3) + 4)	0.38 時間
平成 31 年度の来街者の平均滞留時間の目標値 : 基準値 2.04 時間 + 事業実施の効果等 0.38 時間 = 2.42 時間		<b>2.42 時間</b>

## (2)「目標 暮らしたくなる魅力的な中心市街地の創造」に関する数値目標

### 人口の社会増減（転入者数から転出者数を引いた数）

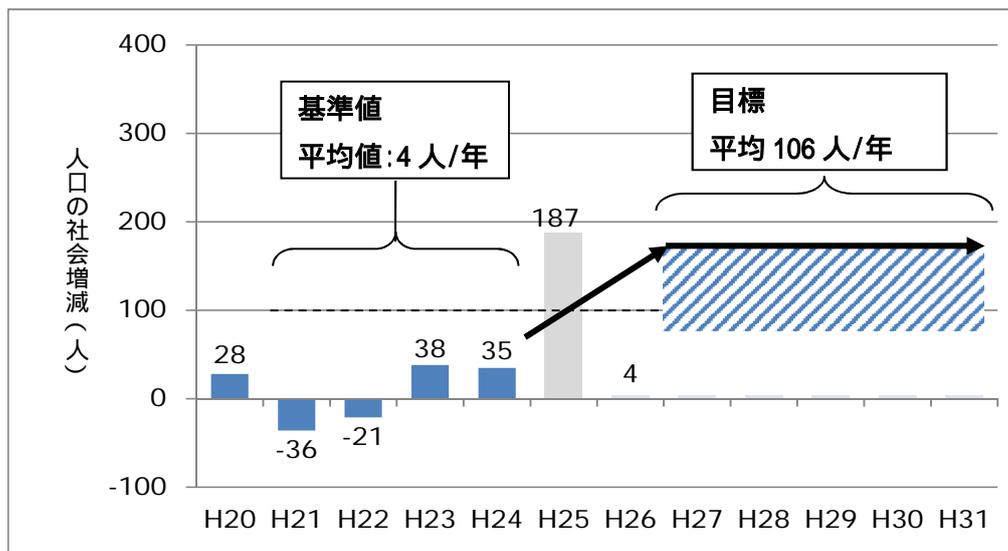
#### 【基本的な考え方】

- ・ 中心市街地の人口は、平成 20 年度から、死亡者数が出生者数を毎年度上回り、自然減の状況が続いており、年々その傾向が強くなってきている。
- ・ 居住環境を整えることで、中心市街地への転入を促進し、住み続けてもらうことが、重要となる。
- ・ キセラ川西マンション建設事業による新規住宅供給をはじめ、川西能勢口駅周辺において実施されるサービス付高齢者向け住宅施設整備事業により、中心市街地の居住人口の増加をめざす。

#### 【目標】

人口の社会増減の平均(5年間) 目標 106 人/年(平成 27 年度～31 年度平均)

(基準値 平均 4 人/年(平成 21 年度～24 年度))



平成 25 年度は民間によるマンション供給等の影響より、大幅な社会増となったことから、特異点として、上記基準値の算出には用いず、代わりに平成 21 年度の値を用いた。

以上の目標数値を達成するために、次のとおり効果を見込む。

1) 活性化事業を実施しない場合の人口の社会増減の推計値

- ・民間事業者のマンションが相次いで建設されたことにより、平成 25 年度に大幅な人口の増加が見られたが、平成 25 年度を除くと、人口は約 8,000 人で横ばいの傾向であったため、新規活性化事業を何も実施しない場合、平成 31 年度までは横ばいに推移していくと見込む。

2) キセラ川西マンション建設事業による効果

- ・キセラ川西における、新たな住宅供給に伴う新規居住人口の増加を見込む。
- ・当該事業の計画戸数は 202 戸であり、世帯人員数を平均 2 人/世帯とする（H26 年 3 月末・住民基本台帳）。
- ・住環境の改善・向上による居住者数の増加を 50 人と見込む。

(仮称)キセラ川西住宅施設整備事業による効果：454 人  
202 戸 × 2 人/世帯 = 404 人  
+ 住環境の改善・向上による効果：50 人相当 = 454 人

3) サービス付高齢者向け住宅施設整備事業による効果

- ・当該事業による住宅供給に伴う新規居住人口の増加を見込む。
- ・サービス付高齢者向け住宅施設整備事業により、ワンルーム住戸を 55 戸供給する。

サービス付高齢者向け住宅施設整備事業の効果：55 人  
サービス付高齢者向け住宅施設整備事業（55 戸 × 1 人/世帯）  
施設がワンルームであるため、主として単身世帯の入居を想定

1) ~ 3) により、目標値は、次のとおりとなる。

## 目標達成のための総括表

### 総括表

項目	事業実施の効果等	増加人数等
基準値	平成 21 年度 ~ 平成 24 年度の社会増減平均値	4 人
推計	1) 活性化事業を実施しない場合の平成 31 年度の人口の社会増減の推計値	0 人 (平均値)
積算等	2) キセラ川西マンション建設事業による効果	454 人 (実数)
	3) サービス付高齢者向け住宅施設整備事業による効果	55 人 (実数)
	社会増減平均値 1) + 2) + 3) ÷ 5 年間 = 101.8 人	102 人 (平均値)
平成 27 年度 ~ 平成 31 年度の社会増減平均値 基準値 4 人 + 事業実施の効果等 102 人 = 106 人		106 人 (平均値)

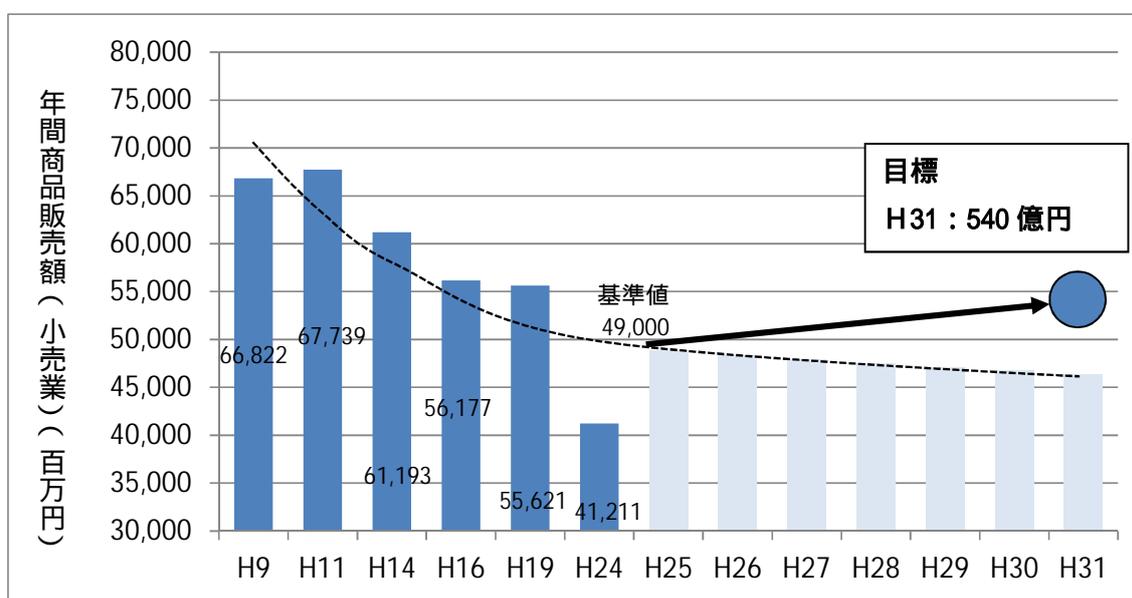
## 参考指標：年間商品販売額（小売業）

### 【基本的な考え方】

- ・年間商品販売額（小売業）は景気の低迷などを受け減少傾向にあり、平成 24 年度は 412 億円となっている。
- ・旧ジャスコ跡地には「イオンリカー&ビューティー」が平成 25 年度にオープンし、また、アステ川西地下 1 階が平成 25 年度にリニューアルされたことから、平成 25 年度の年間商品販売額は 490 億円まで回復していると推計される。
- ・まちなか滞留調査の結果から、中心市街地への来街目的の約 4 割は「食料品の買い物」であることから、ソフト事業の実施効果とともに、（仮称）キセラ川西商業複合施設整備事業を通じて、生活に密着した商業機能を高めることによって、年間商品販売額（小売業）の数値の増加をめざす。

### 【参考指標の目標】

年間商品販売額（小売業） 目標 540 億円（H31 年度）（基準値 490 億円（H25 年度推計値））

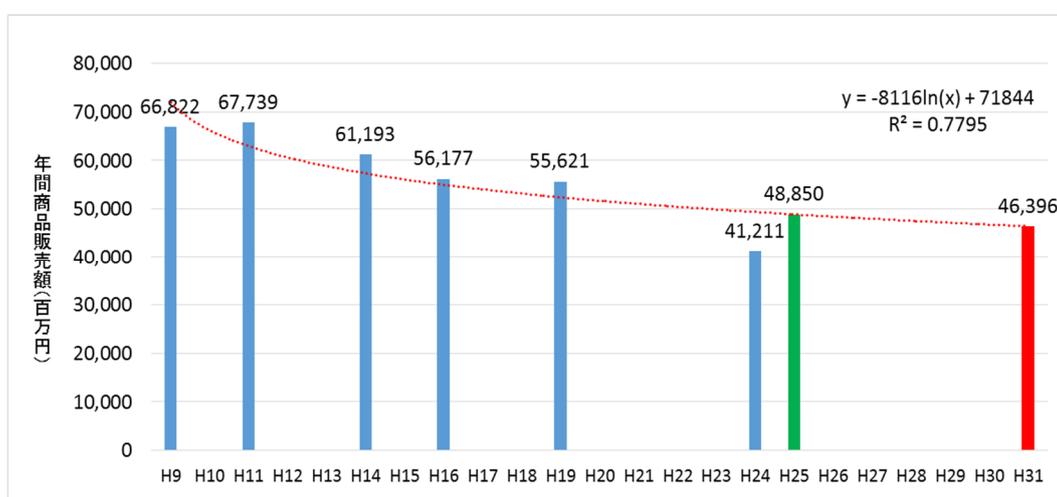


以上の参考指標の数値を把握するために、次のとおり効果を見込む。

### 1) 活性化事業を実施しない場合の年間商品販売額（小売業）の推計値

- ・年間商品販売額（小売業）の実績値を用いて分析した結果、活性化事業を実施しない場合、年間商品販売額（小売業）は約 464 億円になると見込まれる。
- ・予測値である平成 25 年度の数値は、アステ川西改修事業などによる大規模商業施設の開業等の影響で延びているため、回帰分析の対象を年間商品販売額の実績値である平成 24 年度までとして算出している。
- ・平成 9 年度から平成 24 年度までの減少額から算出された回帰分析の数式（図表の右上の数式）を用いて計算すると、平成 25 年度から平成 31 年までの年間商品販売額（小売業）の推計値は 27 億円となる。

年間商品販売額（小売業）の実績値による回帰分析



活性化事業を実施しない場合の年間商品販売額（小売業）の推計値： 27 億円

## 2 )(仮称)キセラ川西商業複合施設整備事業による効果

- ・(仮称)キセラ川西商業複合施設は、核店舗としてのスーパーマーケットのほか、温浴施設などからなる。この施設の小売業の売場面積を1万㎡と想定する。
- ・当該施設の年間商品販売額を77億円と想定する(県内の売場面積当り年間商品販売額実績0.77百万円/㎡・平成24年度・経済センサス)

(仮称)キセラ川西商業複合施設整備事業による効果：77億円  
 = 売場面積1万㎡×売場面積当り年間商品販売額0.77百万円/㎡ = 77億円

1)と2)により、参考指標の目標値は、次のとおりとなる。

### 総括表

項目	事業実施の効果等	増加額等
基準値	平成25年度の年間商品販売額(小売業)	490億円
推計	1)活性化事業を実施しない場合の平成31年度の年間商品販売額(小売業)の推計値	27億円
積算等	2)(仮称)キセラ川西商業複合施設整備事業による効果	77億円
	事業実施の効果等の合計 = 1) + 2)	50億円
平成31年度の年間商品販売額(小売業)の目標値 基準値 490億円 + 事業実施の効果等 50億円 = 540億円		540億円

## [ 5 ] フォローアップ

それぞれの目標値について、次の方法で数値を把握し、その結果をもとに、本指標における目標の達成状況を検証する。

また、その検証結果を中心市街地活性化協議会に報告して意見を聴取する。

さらに、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じ、計画期間の最終年度に再度検証を行うものとする。

評価指標	フォローアップ
<b>目標 多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造に関する目標指標</b>	
歩行者・自転車 通行量 (休日)	歩行者・自転車通行量調査(休日)を実施する川西市中心市街地活性化協議会から毎年度報告を求め、毎年度のフォローアップを行う。
来街者の平均滞 留時間	まちなか滞留調査を、詳細なフォローアップが可能となるよう、毎年度実施し、市民ニーズ等を聞き取りしたうえで毎年度のフォローアップを行う。
<b>目標 暮らしたくなる魅力的な中心市街地の創造に関する目標指標</b>	
人口の社会増減	住民基本台帳のデータから、毎年度の人口の社会増減を集計していくことで、毎年度のフォローアップを行う。
<b>2つの目標に共通する参考指標</b>	
年間商品販売額 (小売業)	経済センサスの結果を活用する。ただし、当調査については、2年あるいは3年ごとの実施となることから、商業者へのヒアリングなど、市独自の調査で補完しながら、毎年度のフォローアップを行う。

## 中心市街地の現状

川西市の概況
大阪市や神戸市の大都市近郊の住宅都市。 恵まれた自然環境。
中心市街地の概況
川西能勢口駅周辺は、公共交通機関の結節点。 大規模商業施設、文化施設、行政等の公共施設等が集積。 中央北地区における、新しいまちづくりの推進。
中心市街地の現状に関する統計的なデータの把握・分析
高齢化の進行により、将来的には人口が減少する見込み。 ○小売業の商店数や年間商品販売額等は減少傾向。 歩行者通行量は、H22年度以降に増加傾向。 乗降客数は、鉄道は微減、バスは増加傾向。
市民ニーズ等の把握・分析
来街目的の約4割は「食料品の買い物」で、中心市街地のイメージは「利便性の高いまち」。 中心市街地に求める機能は、エンターテインメント施設や憩いの場の空間。 滞留時間は、平均2.04時間(122分)で、来街者の半数は、「楽しみながら回遊したくなるまち」と感じている。
前基本計画による取り組みの評価
○中央北地区において、区画整理が着実に進捗しており、次期計画期間内において、ハード事業に確実に着手できる見込みとなった。 ○駅周辺の大型店のリニューアルや商業、芸術・文化を含めた様々なイベント等による効果として、歩行者通行量が増加に転じ、目標を達成した。 ○長引く不況、周辺都市での大規模商業施設の建設などに加え、旧ジャスコの一時撤退や大型店リニューアルに時間がかかったことなどから、年間商品販売額(小売業)が減少し、目標を達成できなかった。 ○来街者の平均滞留時間が減少し、ハード事業や各種イベント等の展開だけでは、滞留時間を延ばすことはできなかった。 ○リーダーとなる人材やまちづくりに関する専門知識を持った人材が不足しており、活性化事業における組織間の連携が不十分であった。 ○前基本計画策定時、居住人口を増加させることで、購買需要を増やす見込みであったが、実際は約8千人で横ばいに推移した。

## 中心市街地の課題

### キセラ川西の有効活用

現在、事業が進捗しているキセラ川西において、新たな魅力を生み出すとともに、川西能勢口駅周辺とを相互に回遊させる仕組みを構築していくことが必要になる。また、川西能勢口駅周辺のにぎわいとキセラ川西から新しく生まれるにぎわいをうまく活用することで、来街者や居住者に新しい魅力と価値を与え、「訪れたい」「住みたい」まちをめざしていく必要がある。

### 来街者と居住者にとっての魅力の向上

歩行者通行量は増加してきており、中心市街地のにぎわいは回復しつつある一方で、年間商品販売額(小売業)は減少、来街者の平均滞留時間はほぼ横ばいであった。

そのため、来街者のニーズに即した多様なイベントの開催を検討し、来街者をまちにひきつけ、歩行者等の通行量をさらに増加させていくとともに、利便性の向上やサービス機能を強化するほか、環境に配慮した暮らしやすいまちづくりを行うことで居住人口を増加させ、居住者による購買需要の増加につなげていく必要がある。

### タウンマネジメント機能の強化

商業者や商店会、商工会と市が相互に連携しながら活性化に取り組む必要があり、現在あるイベントに加えて、特色あるイベントの企画・実施、将来のまちづくりリーダーの発掘・育成など、タウンマネジメント機能を強化する必要がある。

テーマ **活力があり、環境にやさしく、暮らしたくなる中心市街地の創造**

活性化の基本方針

基本方針

市民活動・交流が活発な、みんなが行きたくなる魅力あふれるまちをめざします

基本方針

生活関連サービスが充実した、環境にやさしい、住みやすいまちをめざします

基本方針

個々の人や組織をつなぎ、多様な取り組みを通じて活性化を図ります

活性化の目標

目標達成のための44事業

歩行者・自転車通行量(休日)

目標 71,727 人/日

【基準値 67,830 人/日・H26 年度】

にぎわいを把握する指標として、「歩行者・自転車通行量(休日)」を前基本計画に引き続き設定する。

来街者の平均滞留時間

目標 2.42 時間 [145 分]

【基準値 2.04 時間 [122 分]・H26 年度】

まちにどの程度滞留しているかを把握する指標として、「来街者の平均滞留時間」を設定する。

2つの目標に共通する参考指標

年間商品販売額(小売業)

目標 540 億円

【基準値 490 億円・H25 年度推計値】

商業の状況を把握する参考指標として「年間商品販売額(小売業)」を設定する。

人口の社会増減

目標 106 人/年・H27～31 年度平均

【基準値 平均 4 人/年・H21～24 年度】

中心市街地への新規居住の状況を把握する指標として「人口の社会増減」を設定する。

番号	事業名	新規事業	基本方針			
			1	2	3	
市街地の整備改善のための事業	01	市道3号道路改良事業				
	02	市道3号歩道整備事業				
	03	中央北地区特定土地区画整理事業(土地区画整理、道路整備)				
	04	都市計画道路火打滝山線東側歩道拡幅事業				
	05	都市計画道路せせらぎ遊歩道整備事業				
	06	中央公園整備事業				
	07	(仮称)キセラ川西商業複合施設整備事業				
都市福祉施設を整備する事業	44	藤ノ木さんかく広場整備・運営事業				
	45	古田敦也メモリアルギャラリー整備・運営事業				
	08	キセラ川西プラザ整備事業				
居住促進のための事業	06	中央公園整備事業(再掲)				
	09	子育て支援事業				
	10	ファミリーサポートセンター運営事業				
	11	キセラ川西マンション建設事業				
	12	サービス付高齢者向け住宅施設整備事業				
	03	中央北地区特定土地区画整理事業(再掲)				
	07	(仮称)キセラ川西商業複合施設整備事業(再掲)				
商業活性化のための事業	13	川西能勢口駅東地区の再生整備事業				
	14	タウンマネージャー事業				
	15	猪名川花火大会				
	16	みつなかオペラ				
	17	アーティストオーデション				
	18	川西まつり				
	13	川西能勢口駅東地区の再生整備事業(再掲)				
	19	生涯学習短期大学レフネック運営事業及び高齢者大学開設事業				
	20	図書館運営事業				
	21	子どもの読書活動推進事業				
	22	金太郎プロジェクト				
	23	源氏まつりイベント				
	24	川西寄席 桂米朝一門会				
	25	川西こころ街シリーズ				
	26	ベストクラシックス				
	27	市民合唱とオーケストラ シリーズ				
	28	大蔵流 茂山狂言 新春川西講演				
	29	プラス・フェスタ in KAWANISHI				
	30	0歳から楽しめる親子のための舞台芸術				
	31	いちじくの即売会				
	32	桃の即売会				
	33	かわにしまるまるマルシェ				
	34	花と緑のアステ川西プロジェクト				
	35	きんたくんゼミナル				
	36	川西まちなか美術館				
	37	きんたくんバル				
	38	光のオブジェ展事業				
	39	かわにし音灯り				
	40	かわにし健幸マイレージ事業				
	41	かわにしにぎわい創出イベント事業				
	42	アステ川西改修事業				
	44	藤ノ木さんかく広場整備・運営事業				
	45	古田敦也メモリアルギャラリー整備・運営事業				
	07	(仮称)キセラ川西商業複合施設整備事業(再掲)				
	一体的な推進のための事業	14	タウンマネージャー事業(再掲)			
		43	交通ネットワーク検討事業			

多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造

目標 暮らしがよくなる魅力的な中心市街地の創造